

あきた自動車産業振興協議会 総会・講演会

開催内容 県とセンターの重点分野である自動車産業の振興に向けた活動報告と有識者講演会を開催



総会、講演会

産学官連携で取り組む秋田県の自動車産業の未来

5月17日、秋田ビューホテルを会場に「あきた自動車産業振興協議会総会・講演会」を開催。同協議会は、生産技術の向上や受発注の拡大、人材育成等の支援を通じて自動車関連産業の振興を図る組織として県が平成18年に設立。当センターも幹事を務める。この日も自動車産業への参入や取引拡大を目指す企業等、約100名が参加した。

総会では、昨年度の事業成果と今年度予定している展示商談会(刈谷市、デンソー)や自動車産業ニーズ勉強会、人材育成事業、認証取得支援事業等の説明があった。

その後、トヨタ自動車株式会社 常務役員 西村祐氏が「トヨタのものづくり～仕入様先との共存共栄を目指して」をテーマに講演を開催。会員企業が熱心に聞き入った。

講演会レポート

“ものづくり”の現場改善 ムダを排除し競争力向上へ

キャリアの大部分を調達部で過ごした西村氏は、トヨタの調達の原点は“仕入先との共存共栄”であると前置きし、この100年に1度の変革期ともいわれる自動車業界において“ものづくり”の現場からの問題提起とその改善の重要性を説いた。

「全ての問題は現場に集約されている。トヨタ生産方式とは、生産現場から徹底的にムダを排除することで、ものづくりのプロセスで発生する出金(原価)を減らし、お客さま目線の付加価値を高めながら自社の利益拡大に繋げていくこと」。

そのためには、企画から製造・販売に至るまで関わる全員が“ものづくり”の現場を理解し、各自がムダを見極める“共通のものさし”を持ちながら、クロスファ

講師

トヨタ自動車株式会社
常務役員 調達本部 本部長

西村 祐氏

ンクションかつ一気通貫に取り組んでいく姿勢が必要であると強調。改善事例として、動画で作業や生産工程の改善意図を解説。つくり易い設計構造への変革と、生産工程の短縮や投資・スペース減を同時に実現する『ものづくり改革活動』が紹介された。

また、東北地方の中小企業の現場改善を支援する同社の取組も紹介。支援の過程でトヨタ側にも大きな学びがあったことから、今後も地元企業の皆さまと競争力強化に向けて共に歩んでいきたいと締めくくった。



参加者の声

太平化成工業株式会社
大坂 直也 さん



現在、トヨタのTier1サプライヤ様のメッキ処理を受注できるよう、県のアドバイザーと改善活動に取り組んでいます。講演で紹介されたトヨタ生産方式の“作業者のやりにくい作業を改善する”取組が具体的で大変勉強になりました。

取引先と長期、安定的な関係を築くため品質、価格、納期、技術力の向上に誠意に対応することももちろんですが、お互いに成長、発展していくことが、お客さまのためのより良い商品製造に繋がっていくのだと感じました。



トヨタ自動車東日本の改善支援を受けた日南工業様。そのノウハウは食品産業にも通じる

講演会後の質疑応答では忌憚らない意見、質問が飛び交った